



南雲 正

# スキー観光の振興と積極的な町政運営を

## 町長答弁

スキー観光の振興を  
 湯沢町を訪れるスキー客は、平成4年度をピークに、昨年は約65%の減少という異常な状況となっている。

## 質問

若者人口の減少、風評被害等が続き、これまで通りのことを今後も続けていてはスキー関連産業の消滅も懸念され、大きな変革が必要な時期が来ているとの指摘もある。

町の観光の原点であるスキー観光を守り、発展させるためにはファミリィやシニア層をターゲットに、親子でのスキーがなぜ必要なのか、またシニア層にとつてのスキーの効果等を情報として湯沢から全国に発信し、スキーに目を向けさせることが必要であると思つたが、町長の考えを伺いたい。

スキー人口の急激な減少には大変憂慮している。県全体の6割が湯沢町のスキー客ということでもあり、責任も重大である。冬の花形スポーツであるスキーが今かなり危ない状況に追い込まれていると、私も感じている。

この状態が継続すれば将来スキー関連産業の存在も疑問視される。北海道、長野との地域間競争に打ち勝ち、湯沢のスキー関連産業再生のため、情報発信も含め、スキーのメッカ湯沢の総力を結集し、スキー産業の活性化に取り組みたい。

今冬は、韓国からのスキー客誘致を観光協会が進めている。県内の学校のスキー授業の推進、マンシジョンオーナー対応等も考えている。

## 三俣地域振興対策の進捗は

## 質問

清津川ダム実施計画調査

の中止が決定し、5年が経過した。三俣地域の持つ自然、歴史文化遺産は、観光の町湯沢にとって大きな観光資源であり、三俣地域振興策の早期実現が湯沢観光の新しい魅力となる。

三俣振興対策を三俣地域だけの問題とせず、湯沢町全体の問題として捉え取り組むべきであり、振興策の現状、進捗状況を広く町民に知らせ、町全体の重要課題とすべきであると考え、町長の考えを伺う。

## 町長答弁

三俣は豊かな自然の残った地域であり、三国街道の歴史文化的にも貴重な財産が残されている。地域振興策について、地元協議会との合意形成が図られ、確認書が締結されたことは大きな前進であり、今後町の重要課題としてホームページ等の活用で町民への情報提供を積極的に進め、早期実現に向けもう少し頻繁に地域に足を運ぶ努力をしたい。

町民満足プロジェクトの成果は

## 質問

町長提唱の職員の研修を基本とした町民満足を目指すプロジェクトが推進されている。町長はこれにより職員の資質の向上を図りたいという考えを示されているが、職員は企画立案能力等がないわけではなく、それを引き出す町長をはじめとする上司の力量が問われている。

これらの観点から、このプロジェクトの内容と目指すものを明確にし、2年目を迎えた成果を聞きたい。

## 町長答弁

職員の接遇態度が悪いという批判が私に寄せられ、信頼関係の構築のために4年くらいの計画で立ち上げた。全員参加の会議方式で進められ、挨拶の励行や接遇の改善を求めたプロジェクトが、最終的にはまちづくりに繋がるといふ意外な方向に発展している。接遇面はある程度改善され、今年度は政策形成実践研修に取り組みたい。

国際交流の今後は

## 質問

アメリカ・マグナと姉妹都市を前提に始まった国際交流事業も5年目を迎え、中学生派遣が4回・51人の中学生がマグナを訪問し、マグナの学生受け入れについても3回・33家庭がホームステイを受け入れ、大きな成果を上げている。

町長は今年度の施政方針の中で姉妹都市提携への意欲を示しているが、マグナからのメッセージには常に姉妹都市提携の働きかけがあるが、町は応えていない。今後の対応、取り組みについての町長の考えを伺う。

## 町長答弁

マグナとの教育交流がさらに発展し、友好関係が築かれたら姉妹都市提携も実現できるといふ期待は変わらないが、まだまだ時間がかかる。

6月に町の現状を書面でマグナに伝え、マグナからは姉妹都市の調印という形式にはこだわらないという理解があり、今後も友好関係の維持に努めたい。